

朝鮮半島情勢と日韓関係 (於:外交研究会)

平成28年5月26日

前在韓国大使

武藤正敏

日韓合同世論調査結果

			日本			韓国		
日韓関係	良い	(悪い)	29%	(66%)		15%	(82%)	
(前回)				(85%)			(89%)	
慰安婦合意	評価する	(評価しない)	49%	(38%)		21%	(73%)	
少女像	撤去すべき	(撤去必要ない)	62%	(9%)		27%	(87%)	
北朝鮮核開発	脅威	脅威を出さない	84%	(15%)		72%	(26%)	
	放棄させられる	放棄させられない	26%	(67%)		35%	(61%)	
中国への信頼度	信頼できる	対中関係良い	12%	(18%)		40%	(65%)	

世論調査の評価

武藤

韓国の国民は基本的に日本好き
政治や歴史がテーマとなると、親
日と思われたくない感情
慰安婦合意 評価しない人より
日韓関係悪いという人の方が多い
少女像淡々と合意進めれば
時間かかるが撤去されるのでは

柳明煥元長官

国民同士の感情悪くない
日韓関係「悪い」という感情、政治関係
に限ったこと
慰安婦団体の声が大きく、国民が
詳しい内容知らないため
財団の事業に、元慰安婦が納得す
るまで時間かかる 見守って

I. 朝鮮半島情勢

1. 朴槿恵政権の対日、米、中、北朝鮮政策に大きな変化

(1) 3つの要因

日韓慰安婦合意：首脳会談が決め手、日韓関係転換へ

北朝鮮の核実験・ミサイル発射：実戦配備はあるか

中国の対応：制裁に慎重、北朝鮮の崩壊や混乱を懸念

(2) 韓国のマスコミ論調

朴政権は米、中、日との関係を全面的に見直すという課題抱えた

今や北朝鮮という悲劇は最終章に向かっている

北の非核化だけでなく政権交代まで眺めるべき

I. 朝鮮半島情勢

2. 日韓慰安婦合意

(1) 概要及びポイント(韓国が降りてくるまで待った)

日本政府は責任を痛感: 日韓ともに基本的立場維持を主張できる

韓国が財団: 朴大統領が先頭に立って説得、慰安婦に初めて反論

(挺対協、ナムムノ家に属する元慰安婦以外は29人中26人評価)

最終的かつ不可逆的解決: 蒸し返しても国際的アピールなし

少女像の撤去: 問題が解決してから実現可能?

マスコミ冷静、挺対協猛反発

当面韓国政府の慰安婦説得を見守る(合意破棄は挺対協が喜ぶ)

(2) 合意の意味: 関係改善の障害取り除く、首脳会談開催が容易に

I. 朝鮮半島情勢

3. 北朝鮮の核実験・ミサイル発射

(1) 核実験: 水爆と発表したが、**疑問点多い**

ミサイル発射: テポドン改良型か? 性能は改善 衛星軌道に乗ったが、韓国政府は**大気圏再突入の技術はない**との見方

(2) 北朝鮮の意図

米国への攻撃能力持つことで直接交渉

(注) 米攻撃能力、中東への輸出余力持てば米は黙っていない)

中国の朝鮮半島への影響力削減

(参考) **外交的孤立への不満 各国の注意ひきたい**

I. 朝鮮半島情勢

3. 北朝鮮の核実験・ミサイル発射

(従来の対応: 中国の消極姿勢で薄まった国連安保理制裁のみ)

(1) 朴政権の対応硬化: 開城工団の全面中断(年間130億円、北朝鮮との窓口の閉鎖)、宣伝放送の強化(金正恩政権批判、北朝鮮強く反発) 高高度防衛ミサイル配備の交渉開始(中国が反対)、米韓合同演習の強化(空母、原潜、B52、F22、特殊部隊投入)

(2) 朴大統領国会演説(2・16) これまでのやり方、善意では核開発止められない
金正恩 核いずれ実戦配備へ 実質的変化もたらず根本的解決策の勇気を
核兵器開発は北朝鮮の体制崩壊を早める発言 ルビコン川を渡る 関係改善困難に

(3) 国連の北朝鮮制裁決議: 石炭と鉱物の輸入禁止、航空燃料の輸出禁止、北朝鮮出入りの全貨物の検査、金融制裁強化(中国の協力が鍵)

このほか各国は独自制裁: 日、米、韓など

I. 朝鮮半島情勢

4. 韓国は日米韓関係重視へ

(1) 中国傾斜の失敗、中国の基本姿勢見抜けず

中国北朝鮮に対する不快感あり核・ミサイル開発に反対も混乱望まず

(2) 米国の韓国に対する不満：共同記者会見でのオバマ発言 KFXの核心的技術に対する協力得られず



(3) 東アジア情勢を戦略的に見つめ直す：北朝鮮対応は日米が協力

(4) 米韓合同演習の強化、THAAD配備に向けた協議開始、日本との包括的軍事情報保護協定交渉（但し、セヌリ党の選挙敗北で困難か）

（注）但し、韓国は中国に対し、強く出ることはできず（事大主義）

I.朝鮮半島情勢

5. 北朝鮮の反発と挑発行動

- (1) 核ミサイル開発を一層急速に進める意思表示(一連のミサイル発射、新たな核実験も?)
- (2) 韓国への上陸を想定した演習、敵対国による北朝鮮上陸を防ぐ防衛演習、朴政権を「除去」するための報復戦に入ると警告
- (3) 天安艦事件や延坪島攻撃などの軍事挑発は行わず(反撃で面目潰すのを恐れる?)

一連の行動は朝鮮労働党大会に向けた金正恩の権威つけと米国との交渉を意識

I. 朝鮮半島情勢

6. 日米韓首脳会談(3. 31)

(1) 北朝鮮問題

3か国の外務・防衛当局間で、**具体的な安保・防衛協力を前進させるよう事務当局に指示**(韓国国内世論意識)

北朝鮮関連の**安保理決議の着実な履行の重要性再確認**

拉致問題を巡る日本の立場説明、米韓の理解と支持取り付け

(2) グローバルな問題

テロ対策や中東情勢、気候変動等 3か国の連携・協力を確認

(注) **米は日米韓重視**、1時間の会談; 日米、米韓会談より断然長い

I. 朝鮮半島情勢

7. 韓国の総選挙の影響

- (1) 与党予想外の大敗 韓国ではありうること(「風」が吹く)
第2党に転落 第3極の台頭
- (2) 候補者公認を巡る内紛、 国政の停滞を野党に押し付けた姿勢、
経済の低迷と格差拡大(「七放世代」)
- (3) 選挙の女王の神通力喪失 求心力の低下
- (4) 野党の反日は強化 軍事情報包括保護協定は困難か
- (5) 慰安婦合意は後戻りできず 少女像の撤去、移転への抵抗はより大きく
- (6) 少女像の撤去なくして、10億円支払わずといえ合意は崩壊 各地に慰安
婦像 日本は淡々と合意履行することが賢明
- (7) セヌリ党の敗北を喜ぶ金正恩 朴政権により圧力か

I.朝鮮半島情勢

8. 北朝鮮の労働党大会

- (1) 金正恩の権威確立: 党委員長推戴、祝賀行事
- (2) 核保有宣言: 制裁には応じない姿勢鮮明に
核ミサイルの実戦配備を如何に阻止するか
- (3) 核経済並進路線といっても核に重点
- (4) 大幅な世代交代人事はなし
- (5) 今後の挑発行動は？
- (6) 拉致問題は？

II. 日韓関係の長期的改善のために

1. 韓国は日本をどのように見ているか

(1) 一般国民と政治家・マスコミとのギャップ

一般国民

基本的に日本が好き:

観光、日本食、小説

韓流ブームも火付け役は日本文化

但し、一部に確信的反日活動家

政治家・マスコミ

政治家: 対立の世界、朴政権の日韓関係改善への反発あり、反日維持

マスコミ: 自社だけが日本擁護の記事書けない、関係改善とともに報道姿勢に変化

II. 日韓関係の長期的改善のために

2. 日韓関係を信念を持って進めた大統領の時は日韓関係良好

- (1) 朴正熙大統領: 日韓国交正常化(歴史問題置き去り批判)
- (2) 全斗煥大統領: 初の国賓訪問、韓国併合は韓国にも責任
- (3) 金大中大統領: パートナーシップ宣言、日本文化開放
- (4) 李明博大統領の前半: 経済関係重視

(参考) 朴槿恵大統領

反日ではないが、中国重視の反動と歴史問題への拘り
国を思う気持ち強い、人を信頼し任せるよりひとりで決断
原理原則重視(頑固で柔軟性かける)

II. 日韓関係の長期的改善のために

3. 国民感情が政治的対立の最大の問題

- (1) 韓国人の反日感情; 自分に都合のいいことしか知ろうとしない
- (2) 日本人の嫌韓感情(2つのタイプ)(韓国は嫌韓感情理解せず)
 - (イ) 韓国人は反日で凝り固まっているとの認識
 - (ロ) 日韓関係のため努力してきたが韓国変わらない
- (3) お互いに客観的に見つめる習性が重要
- (4) これまでの関係修復: 反日への対応が中心、今後は嫌韓にも対応必要
- (5) 橋渡し役の不在(人脈が弱く) → 国際的視野で考えていく

II. 日韓関係の長期的な改善のために

4. 韓国の現状: 格差拡大への不満増大

- (1) 韓国経済長期停滞期に: 近々人口減少局面に、社会資本の蓄積、家計負債の増大で経済対策効果低減、赤字体質の企業の増加、不動産価格低迷
- (2) 財閥系の輸出企業に依存する体質限界に; 中国、新興国の停滞
経済活性化は革新的企業の創生、内需拡大が鍵(但し市場規模がネック)
- (3) 財閥系企業と中小との格差大きい(利益率、輸出額、賃金)
- (4) 教育、就職への過当競争 将来への希望描けず
「七放世代」: 恋愛、結婚、出産、マイホーム、人間関係、夢、就職諦めた世代
- (5) 老後への不安

II. 日韓関係の長期的改善のために

5. 日韓経済関係のメリット

(1) インフラ建設や資源開発で協力

日韓両国政府による支援、金融業の協力体制

(2) 韓国に進出している日本の企業は評価（利益を上げている企業の比率高い）

協力したい分野：技術協力（韓国45.5%、日本31.4%）

(3) 今後の協力分野（経営者アンケートから）

少子高齢化関連（日本の関心；海外展開の布石） IOT（互いの強み組み合わせ、より競争力の強い商品に（日本；センサー、制御ソフト、韓国；IT商品）

(4) 消費材関連の進出加速

(5) TPPが協力余地を拡大 高度な協定、共通ルール

II. 日韓関係の長期的改善のために

6. 人的文化的交流

- (1) 韓国の対日認識は、人的文化的交流で改善 オリンピック、ワールドカップ時に進展 観光客の増大が寄与
(参考) 日韓関係を後押しする世論の指導者は少ない
- (2) 日韓の青少年交流は学ぶことが多い(似ているようで違う)
- (3) 韓国の新しい文化は日本文化の開放後に発展
韓国は初めから文化を世界に売り込む方策重視
- (4) 今後の課題; お互いをより広く、深く知る

III. 日本と北朝鮮との関係

1. 北朝鮮とはどういう国か

- (1) 政権中枢で何が起きているかは誰もわからず(金日成、金正日死去)
- (2) 金正恩政権の行動読めないとの声(大量粛清、強硬派登用)
- (3) 南北関係:瀬戸際外交?(妥協はしない?)
- (4) 外交的孤立の深化:中国の庇護受けられず、米、日とも対立
- (5) 労働党創立70周年演説
 - 「人民重視」「軍隊重視」「青年重視」(若者の政治離れ)
- (6) 闇市場、経済活動の自主性容認(配給経済の崩壊、逆にマイナス成長は脱する効果?)

III. 日本と北朝鮮の関係

2. 日朝交渉

- (1) 交渉するときは何らかの目的(外貨枯渇、援助期待)
- (2) 核・ミサイル実験を受けた追加制裁: 北朝鮮に渡航した第三国船舶の日本への入港禁止、送金原則禁止、資産凍結対象拡大
- (3) 拉致問題を巡る現状
 - 拉致被害者等調査のための特別調査委設立(14. 7)制裁一部解除(14. 7 但し万景峰号の入港禁止、輸出入の全面禁止継続)
 - 報告延期(15. 7)(約束反故は日常茶飯事、都合により変える)
 - (参考) 15. 4 日朝協議仕切り直し、朝鮮総連議長宅への家宅捜索、制裁延長に反発